

地球にECO(いーご)としよう



# 省エネグループ通信



## 夏休みエコライフ・チャレンジ 2016

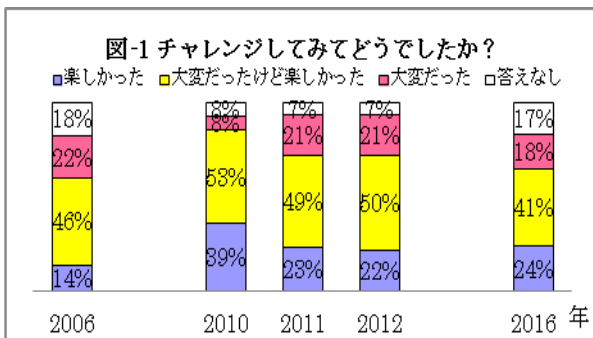
～10年間の取組みから見えた参加者の省エネ意識の動向～

夏休みエコライフ・チャレンジは、川崎市の地球温暖化対策の一環として省エネルギー普及・啓発推進を図るため、子どもたち(主に市内小学5年生)をとおして省エネ・カレンダーを活用し、暮らしに中での省エネにチャレンジする取り組みです。

この取組み 2005 年から毎年実施しています。本号では今回の結果を踏まえ、経年のアンケート結果から取組みの動向をふりかえてみます。

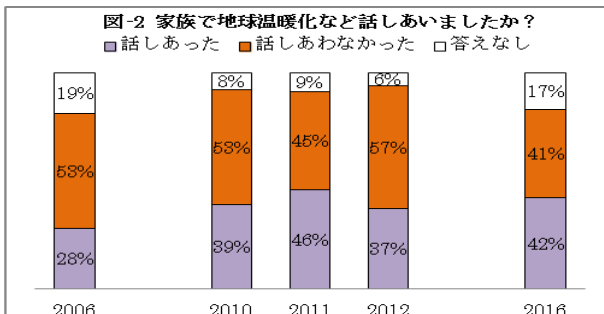
### ●子どもたちの動向 (図-1)

変化はあまり見られませんが、「大変さ」や「難しさ」を感じる子たちは減る傾向にあります。



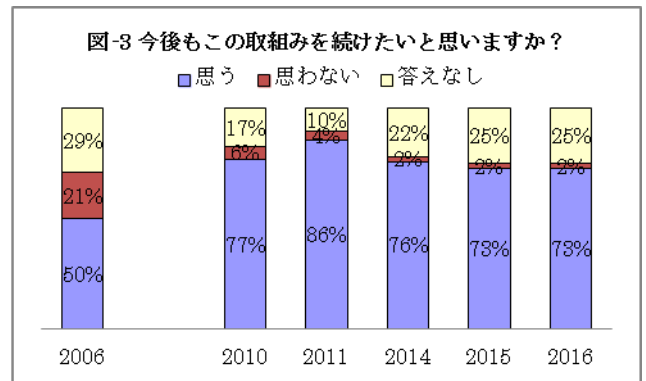
### ●家族との協働 (図-2)

家族で取り組むには難しさはありますが、今回はその数がそうでない数を上回りました。



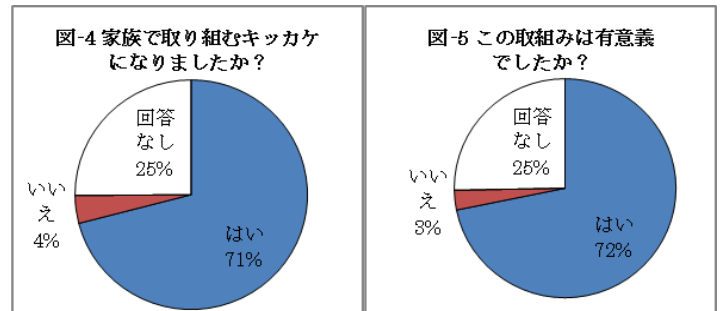
### ●今後エコライフを続ける思いは (図-3)

大震災以降今後もこの取組みを続けたいとの回答が大多数を占め、そうでないとの回答はほぼ無くなりました。あとは実行に繋がられる活動が肝要です。



### ●エコライフ・チャレンジの効用 (図-4.5)

図-4.5 は今回保護者からのアンケート結果によるものですが、回答してくれた殆ど全員が「取り組むキッカケになった」「有意義だった」と答えてきています。



### ●おわりに

周知のとおり国の家庭部門でのCO2削減目標は13年度比40%とされおり、容易なことではありませんが、暮らしを見直すことで目標達成に貢献したいと思いますので、今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いします。

## 出前授業：事前準備とアフターフォロー

暑い日が続いた長い夏休みも終わり、8月末から授業が再開されましたが、嬉しいことに9月早々から省エネグループの出前授業の依頼がありました。8年前に依頼のあった学校からの久し振りの依頼や毎年要請を頂ける学校と様々ですが、気持ちを引き締めて学校、子ども達に喜んでもらえる授業、分かり易い授業を心がけてメンバー一同で臨みました。

12月までで、省エネグループの出前授業用6プログラムの中から、「地球温暖化とは～見て、触れて、感じて～」が7校、「節電に皆で取り組もう！」が3校、「はっぱはえらい」が2校で選んで頂きました。授業は、講義だけでなく体験を取り入れて、子ども達が飽きないように、また講義だけでは理解が不十分な子どもには、体験することで講義の内容を更に深めてもらう工夫をしていますので、授業は全てク

ラス別で実施しています。その結果、実施クラス数は35クラスに及び、多くの子ども達に授業を受けて頂きました。



発電負荷体験

また、県からの派遣授業も受託しており、今年は、川崎市立や横浜市立の小学校への県派遣授業もしました。過去には、鎌倉市の中学校や、川崎市内や横浜市内や相模原市内にある県立、私立高等学校でも授業を実施しました。

依頼を受けた学校とは、事前の打合せを綿密に実施しています。基本のプログラム内容は有るのですが、プログラムを押し付けるものではありません。まずプログラム内容を説明してから、学校の要望をお聞きして進めるようにしています。可能な範囲で要望内容を取り入れて、プログラムの内容を追加・修正しています。追加・修正した内容については、改めて学校を訪問して再度内容の確認をして、お互いに満足して授業に臨むようにしています。これが、

学校独自のプログラムになります。このキャッチボールが、大切であり、また楽しみでもあります。これが、省エネグループの財産になっていますし、学校との信頼関係が出来ていくと強く考えています。今年は、この要請が多くありました。感謝です！

学校の要請を受けて追加した「ソーラークッカー」についても、講義終了の3.5か月後に先生から子ども達がソーラークッカー作りをしており、アドバイスに来てほしいとの嬉しい依頼まで飛び込んできました。子ども達は、いくつかのグループを作って、いろいろな形のソーラークッカーを作っていました。課題

は、思うように温度が上がらないことだそうです。最高温度は、約130℃のグループでした。子ども達と一緒に



子ども達の工夫したソーラークッカー

なり、温度が上がらない原因のヒントを、また好ましい形状もアドバイスをしました。子ども達は、熱心に取り組んでいました。この様な依頼を受けることも、過去には無かったので嬉しいことでした。

授業終了後に子ども達にアンケートを書いてもらっています。それらのアンケートを拝見し、内容を分析して報告書を作成し、再度学校を訪問して報告をしています。その際に、子ども達が認識間違いしているようなことは、指導して頂くようお願いしています。また、子ども達からの質問全てに対して、回答を作成して説明し、フィードバックして頂くようお願いするアフターフォローも実施しています。

一方、子ども達が学んで、調べて分かったことを全校生、保護者、地域の方々に発表する会にも参加させてもらいました。子ども達に伝えたことを自分たちの言葉で発表しているのが印象的でした。今年度も残り少なくなりましたが、依頼を受けている学校には、最後まで取り組んでいきます。

## 行政との勉強会

11月17日(木)19時から川崎市地球環境推進室の内田洋平課長補佐と加賀谷美紀さんを招いて省エネグループ恒例の行政との勉強会を開催しました。

当日の午後開催された2016年度川崎市スマートライフ大賞受賞団体の取り組み事例発表会の内容紹介とその実績に対するコメントに続いて、内田さんが以前に廃棄物関係部署におられた時国立環境研究所と共同で研究された川崎市「出前ゴミスクール」の活動研究報告の内容紹介がありました。

ゴミ分別は市民にとって分別をきちんとしなければ行政からも指導を受けゴミの回収がなされないペナルティーもあるし、また、ポイ捨てやゴミ分別をしないと後ろめたさを感じる意識にまで達している。これに対して地球温暖化防止に関する市民の省エネ等への怠りは、そこまでの意識に達していないところに、まだまだ今後の市民への省エネ推進活動を展開しなければならぬヒントをもらった気がしました。

終了後お二人にも参加していただいた懇親会では今後の出前環境授業や協働の在り方について熱っぽい議論が続きました。



## 「パリ協定」発効 COP22での日本？

16年11月4日に「パリ協定」が発効(注参照)しました。先進国、途上国の双方が参加して、産業革命前と比べた気温上昇を2°C未満に抑える目標に向かって動き出しました。196カ国が参加した15年12月のCOP21での採択から、わずか1年足らずで発効したのは、中・米・EU・インド(1, 2, 3, 5位のCO2排出国)はじめ、世界各国の意気込みを示すものと思います。ちなみに、京都議定書の発効には採択から8年かかりました。日本は、この世界の動向を見誤り、11月8日にやっと批准しました。そして、日本は「30年度に13年度比で26%削減」を目標としています。

COP22は11月7日から19日まで、モロッコで開催されました。日本はオブザーバー参加となった「パリ協定批准国による初回会議」では、排出量の報告や検証の方法、途上国への支援のあり方などの詳細ルールは18年までに決めることで合意されました。なお、石炭火力発電の新增設(40基以上を計画中)を進める日本は批判を受け、存在感を示すことはできなかったそうです。

(注)発効条件は、55カ国の批准と、批准国の温室効果ガスの排出量の合計が世界全体の55%を超えてから30日後となる。11月4日時点で97カ国が批准。



# 伐って育てる森(里山の若返り) 生物多様性を図る

早野聖地公園 里山ボランティア 会長 小泉 清

私の趣味は 2 つ趣味を持たなければいけないという思いです。それは「静と動」です。1 つ目は「静」の写真撮影です。以前はビデオの撮影から編集までを行い、記録を残すことでした。現在は写真撮影を行い、年に1度の写真展を実施しています。2 つ目は「動」の里山ボランティアです。自然の中で森林浴をしながら大汗をかきながら体を動かすものです。50 歳から始めました。

里山ボランティアは麻生区早野で月2回(第 1・第 3 土曜日)活動しております。活動目的は「里山を将来にわたり保全、管理し、地域振興と早野の文化を継承して人と自然との共生を図ること。」です。活動内容は①里山再生＝伐って育てる森(里山の若返り)生物多様性の向上を図る、②炭焼き(間伐材の活用＝循環利用)、③農業体験(田んぼ、畑、椎茸栽培など)、④地域とのふれあい(小学校・東京農大グリーンアカデミーの支援・講演会)、です。

この冬場は、雑木林から間伐、搬送、ソダ木・ナタ木作り、薪割り、乾燥など炭焼き準備をして、炭焼きを実施(5 回/年＝1 月より)、炭焼き窯に入り原木の詰め込み、新人の実践体験、焚き付け、煙の状況、窯締め、炭出しまでをしています。

この炭はネットに入れ水路に沈めての水質浄化、畑に撒布・埋め込みをして土壌改良、など環境に配慮したことを実感しています。炭は燃焼するとCO<sub>2</sub>

が発生し、空気中に放出されますが、燃やさず水路や畑に撒布すればCO<sub>2</sub> が固定されます。温暖化に少しでも貢献できると思い毎回実施しています。

また、間伐後は空気が広く明るくなり、今までにないたくさんの種類の植物達が生えてきます。これに昆虫類が集まり始め、里山を賑やかにしております。間伐した後は、毎年3月に卒業記念として東柿生小学校6年生に植樹(間伐20本・苗木100本)をしております。中には高校生が来園して、「この木は私達がおじさんに教えてもらって植えた木です。」と言われたときにはグッときます。その木は数mの高さになり元気に育っていました。里山歴約20年ボランティアを行っていて良かったと思う瞬間です。



炭焼き窯内＝原木の詰め込み

—ご意見をお寄せください—

本紙に対する、ご意見、ご要望、ご感想、更には皆様のエコ情報・体験などを下記へお寄せください。皆様と共に、地球環境を維持するため、「楽しく、かつこよく、得する」エコを実践していきたいと思っています。  
連絡先

川崎市地球温暖化防止活動推進センター 省エネグループ  
〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2 高津市民館内  
TEL 044-813-1313 FAX 044-813-1350  
E-mail : [office@kwccca.com](mailto:office@kwccca.com)

ホームページ : <http://syo-ene-group.sunnyday.jp/homepage/>

発行責任者 : 省エネグループ代表 八木洋一

